

# 経験生かし競技間の“バリアフリー”を

支える人



ボート日本チームの  
かじ取り役を務めるの  
立田(左)

## ボート混合かじ付きフォア立田 寛之

ボートの混合かじ付きフォア(運動機能障がい・視覚障がいPR3)で日本代表を支えているのが立田寛之(29=戸田中央総合病院ローイングク)だ。健常者の参加が認められている種目でかじ取り役のcoxswainを務め、手足や視覚に障がいがある男女4人のこぎ手を一つにまとめている。

27日は予選2組最下位の6着で敗

者復活戦に回ったが「まずは楽しもうと思っていた。最後の500mは自分たちの思っていたような上がり方をしてい」と手応えも語った。

石狩翔陽高でボートを始め、日大で大学選手権や全日本選手権を制覇。17年アジア選手権男子エイトで日本の銀メダル獲得に貢献した。しかし、目指していた五輪は世界と差が大きく、パラチームのcoxswainに応募。競技歴14年の経験を生かして

コーチ役も務める。

「クルーの中で実績も選手歴でも、ある程度トップの中でやっていた自覚はある。そういうものを伝えるのは僕の使命」

左腕に障がいのある西岡利拡(49=琵琶湖ク)は「考え方の勉強になる。全員がもう少し上を目指そうと意識が変わった」と影響を口にする。立田の橋渡しでメンバーが健常者チームで練習参加。レベルアップにつなげる一方で立田が学ぶこともある。セオリーを超えてオールの長さを調整するなどパラ独特の柔軟性に「先入観なくチャレンジしている」と受け止め、自身の引き出しを増やしている。

健常の競技にも参加し「パラと完全に区切っているわけでは」と立田。いずれ五輪への挑戦を再開する意向で「障がいのある選手がこげる環境が増えれば」とパラ側の視点も生かし、競技間の“バリアフリー”を目指す。(東 信人)